

令和6年度 図書館だより 〈第3号〉

令和6年7月18日(木) 群馬県立太田フレックス高等学校図書室 発行

夏季休業中の開館日と開館時間

今年度の夏季休業中は、以下のとおり開館する予定です。学習や読書など有効に活用してください。今後、予定が変更になることがあります。利用する際は、学校のWebページまたは図書室の掲示板を確認してください。

7月22日(月)	9:00~16:30	8月6日(火)	9:00~16:30
23日(火)	9:00~16:30	7日(水)	9:00~16:30
24日(水)	9:00~16:30	8日(木)	9:00~16:30
25日(木)	9:00~16:30	9日(金)	9:00~16:30
26日(金)	9:00~16:30	16日(金)	11:00~16:30
30日(火)	11:00~16:30	19日(金)	9:00~16:30
31日(水)	9:00~16:30	20日(月)	9:00~16:30
8月2日(金)	11:00~16:30	26日(月)	9:00~16:30
5日(月)	9:00~16:30	27日(火)	10:30~16:30

夏季休業前・特別貸出の実施

夏季休業前の特別貸し出しを実施します。返却期限は夏季休業明けの8月30日(金)です。以下に紹介する夏休みの本(緑陰図書)をはじめ、読書感想文コンクールの課題図書や読書活動推進協議会が推薦する「若い人に贈る読書のすすめ」(全24冊)を展示しています。夏休休業中の読書の参考にしてください。

第57回・夏休みの本(緑陰図書)

全国学校図書館協議会が選定した、今年の夏休みに子どもたちに読んで欲しい本が決まりました。令和5年4月~令和6年3までに出版された本から厳選したもので、高校生向けの8冊を紹介し、館内で展示しています。

<p>『スピノザの診察室』 夏川草介/著 水鈴社</p> <p>京都の街中にある地域病院で、内科医として働く雄町哲郎は、亡くなった妹の息子、龍之介と一緒に暮らしている。かつては大学病院で将来を有望視される敏腕医師だった雄町だが、今では往診で高齢者宅を自転車であまり、患者から「マチ先生」と慕われる存在となっている。雄町の内視鏡の腕を信じる先輩医師、余命を託す高齢者との関わりなどを通して、患者を支える医療現場を医師の視点から描く物語。</p> 	<p>『ロールキャベツ』 森沢明夫/著 徳間書店</p> <p>夢も特技もない、何となく日々を過ごしていた誠はこの春大学3年生。折りたたみの椅子を持って出かけ、その場の景色を楽しむチェアリングのサークルを通じて大学の男女4人と出会い、それぞれに悩みや過去を背負いながら、互いを励まし合い、大学生活を充実したものに変わっていく物語。個性的な5人が、豊かな自然と周囲の人びとを巻き込みながら、夢や希望を膨らませて行く姿に、勇気をもらえる。</p> 
<p>『百年の子』 古内一絵/著 小学館</p> <p>出版社で働く明日花は、学年誌創刊百年企画チームへの望まぬ異動を受けるが、学年誌の歴史をたどるうちに、今は認知症の祖母スエが同じ出版社で働いていたことを知る。令和のコロナ禍で働く明日花と、戦時中に学年誌編集に携わったスエの物語が交差し、壮大なドラマに発展する。「人類の歴史は百万年。だが、子どもと女性の人権の歴史は、まだ、百年に満たない。」未来への切なる願いが込められている。</p> 	<p>『リーゼ・マイトナー：核分裂を発見した女性科学者』 マリッサ・モス/著 岩波書店</p> <p>20世紀前半に活躍した物理学者リーゼ・マイトナー。女性が高等教育を受けることすら難しい時代に研究の道を進み、のちに核分裂を発見して、原子力の発展に大きな影響を与えた。彼女の才能は著名な学者達に認められていたが、女性でユダヤ人であることから地位も環境も不当に扱われ、栄誉を奪われてしまう。差別に抗いながらも人間性を失わず、探究心を持ち続けた姿勢は多くの人々に感銘を与える。</p> 
<p>『3年間ホケツだった僕がドイツでサッカー指導者になった話』 中野吉之伴/著 理論社</p> <p>高校時代、補欠のため、ほとんど試合に出られなかった著者がドイツのサッカースクールに参加したことをきっかけにドイツで魅了され、大学卒業後留学、地元のクラブの選手、子どもたちのコーチ等さまざまな経験を重ねて、ドイツで信頼されるサッカー指導者になるまでの軌跡。子どものクラブから芝のグラウンドが使える、全員が公式試合に出られ、個性を生かせるドイツの質沢なサッカー環境の日常が描かれている。</p> 	<p>『はじめて読むレオナルド・ダ・ヴィンチ』 石崎洋司/著 講談社</p> <p>天才の中の天才と称されるダ・ヴィンチの謎多き人生を解き明かす入門書である。裕福な公証人の家柄だが、複雑な生い立ち。自然観察が大好きな少年は、やがて絵の腕前を買われ、ルネサンス全盛期のフィレンツェで、突出した芸術家たちと切磋琢磨し、頭角を現していく。メモ魔、輪郭をぼかす「スフマート」という新たな技法、名画秘話、人体=宇宙と解した解剖学、幾何学、軍事兵器。彼の好奇心は留まるところがない。</p> 
<p>『科学目線：上から、下から、ナナメから』 元村有希子/著 毎日新聞出版</p> <p>著者は科学記者として20年以上のキャリアを持つ。新聞や雑誌にここ数年書いてきたコラムなどを、まとめたノンフィクションのエッセイ。当時に起こった話題の時事ネタやニュースの記事を、さまざまな角度から科学的にアプローチして、わかりやすく解説している。一つの話は1~2ページと短く、読者は興味のあるテーマを選び、著者の意見を通して現代の課題に向き合うことができる。</p> 	<p>『賢治と「星」を見る』 渡部潤一/著 NHK出版</p> <p>日本を代表する天文学者である著者から見ても、宮沢賢治の作品に描かれた天体は、単なる空想の世界でなく、作品が書かれた当時の最新の天文学の成果が盛り込まれている。すべての人々の幸いを求める賢治は、そのためこころの有り様が取り上げられることが多いが、科学者としての視点で賢治の作品を読み解くと、また新たな発見がある。著者の宮沢賢治への深い敬愛の念が伝わってくる。</p> 

全国高等学校ビブリオバトル2024 群馬県大会参加者募集

図書室の廊下に開催要項を掲示しました。参加希望者(募集枠：①発表 ②観戦 ③運営ボランティア)は、9月20日(金)までに図書室まで申し込みをお願いします。日時：令和6年11月2日(土) 会場：群馬県立図書館(前橋市日吉町1-9-1)